



炬火を掲げていざ謳う

No.42



# 我々の泉鳥取

2023年5月15日(月)

編集 泉鳥取高等学校閉校記念事業実行委員会

大阪府阪南市緑ヶ丘1-1-10

<https://www.osaka-c.ed.jp/custom91.html>

## 泉鳥取の情報教育

府内でも早い昭和59年度から

平成6(1994)年より始まった教育課程では、教科「情報」が新設され、すべての高校で情報教育がスタートしましたが、泉鳥取高校では、府内でも早い昭和60(1985)年度から情報教育が始まりました。その当時は教科としての「情報科」はまだなく、商業科の科目である「情報処理」「文書処理」、工業科の「工業情報処理」等がパソコンを活用した授業として学習指導要領に位置付けられていました。本校では、情報教育の特別予算によって、パソコンが25台設置され、数学科と理科の教員が免許外申請を行って、選択科目「情報処理(商業)」の授業をスタートさせています。

昭和59(1984)年、本校にパーソナルコンピュータ富士通FM77が25台設置されました。ただ、現在とは全く異なり、アプリケーションソフトはなく、BASICという機械語で、自分でコマンドを入力してソフトを作成しないと動きませんでした。コマンドは3.5インチのフロッピーディスクで保存し、ブロック崩しやテニスゲームを皮切りに、BASICの基本命令を学んでいました。また、機械も25台しかないため、授業では2人で1台の機械を使わざるを得ませんでした。



平成4(1992)年度の学習指導要領改訂とほぼ同時期に、本校にLAN接続された新たなパソコンが設置されました。この時期になるとパソコンを動かすオペレーションシステムが導入され、MS-DOS(マイクロソフト社のドライブオペレーションシステム)が内蔵された、富士通FMR50型が50台導入されたのです。但し、現在のように多くのアプリケーションが前もってインストールされているのではなく、また、ハードディスクもついておらず、アプリケーションソフトを立ち上げるためには、5インチのフロッピーディスクを抜き差しすることが必要で、しかもそのソフトは別途購入、ソフトのコンパチビリティ(互換性)はなく、富士通用のソフトを購入する必要がありました。

当時、これまでの「情報処理」に加えて、就職する生徒の2年選択科目として「文書処理」を設定しまし

た。その授業のためには、機械の台数分のワープロソフトが必要でした。

ちょうど創立20周年の節目に当たったため、記念品としてワープロソフトを寄付いただきました。さらに、簡易プリンタをすべての機械に設置しました。



ベーシックで絵を描く生徒(1992年頃)

その後平成15(2003)年、学習指導要領の改訂で、全校で教科「情報」の授業が必修化され、泉鳥取高校の情報教育に他校との優位性がなくなり、通常の全日制普通科における情報教育と同様の内容になりました。



令和4(2022)年度の「社会と情報」の授業

生徒が調べまとめた結果をプレゼンテーションしている